2027年３月期 第２四半期

決算説明会

未来は光でおもしろくなる

USHIO

ウシオ電機株式会社

2026年11月6日

Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved.

*本資料の記載は、切捨てによる億円単位で表記しております。
*売上高は外部顧客向け。営業利益率は、外部顧客向け売上高に対する比率を記載しております。
*IP = Industrial Process事業、VI = Visual Imaging事業、LS = Life Science事業、
PHS = Photonics Solution事業

ウシオ電機 代表取締役社長の朝日です。

本日はお忙しいところ、弊社「2027年３月期 第２四半期決算説明会」にご参加いただき、誠にありがとうございます。

本日、ウェブサイトにて開示した資料にもとづき、決算内容をご説明します。

本日お伝えしたいこと

USHIO

2026年度 １H業績実績：増収増益

- AI需要を背景とした半導体関連事業の伸長及び円安効果
- 収益性の改善
  構造改革効果の発現、光源事業拡大による製品ミックス改善及び棚卸資産評価損の戻入れ計上

2026年度 通期業績予想：上方修正

- 半導体関連事業の伸長及び収益性改善の継続を見込み、売上・利益ともに上方修正

決算トピックス

- 露光装置の引き合い・受注増加を受け、**生産能力の増強を決定**

Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved. 2

本日お伝えしたいことは、記載の３点です。

第２四半期は、第１四半期の順調なスタートの流れが継続し、増収増益となり、
売上・利益ともに社内計画を上回り推移しました。

AI需要を背景に、半導体関連の事業全般が伸長していること。
構造改革を実行した効果が着実に発現していること。
また、光源事業の伸長により製品ミックスが改善していることや、
露光装置の需要回復・拡大に伴い、棚卸資産評価損の戻入れを計上したことで
収益性が改善していることから、
増収増益となりました。

引き続き、下期も堅調な事業環境が想定されることなどから、
売上および利益の通期業績予想を上方修正します。

また、足元で露光装置の引き合い・受注が増加していることを受け、
生産能力を増強しています。

詳しくは後ほど、ご説明します。

まずは第２四半期業績についてご説明します。

(スライド４ページへ)

I.　2026年度 １H業績概要

II.　2026年度 通期業績予想

III. 決算トピックス

IV. 参考資料

Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved.

2026年度１H：業績サマリー

USHIO

売上高
1,035億円

前年同期比 ： 221億円増 （+27.2%）

- 全体：半導体関連の需要増に加え、OSRAM事業買収*による効果で増収
  IP事業：半導体関連の需要増を背景に、光源の販売及び稼働が好調
  VI事業：映像演出案件が堅調に推移し、映像装置の販売が増加

営業利益
97億円

前年同期比 ： 57億円増 （+143.8%）

- 主な増益要因
  構造改革効果、棚卸資産評価損の戻入れ計上、光源事業の伸長による製品ミックス改善

親会社株主に帰属する
中間純利益
53億円

前年同期比 ： 51億円増

- 事業構造改善費用（特別損失） - 億円 (2025年度１H： 40億円)
- 減損損失（特別損失）_事業構造改善関連 9 億円 (2025年度１H： 3億円)
- 投資有価証券売却益（特別利益） 2 億円 (2025年度１H： 18億円)

*ams-OSRAMグループのランプ事業の買収のこと。以降同様

Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved. 4

第２四半期業績は、
売上高は221億円の増収、営業利益は57億円の増益、
中間純利益は51億円の増益となりました。

売上高は、
オスラム事業買収による増加もありますが、
インダストリアルプロセス事業で半導体に関連する光源販売が増加していること。
ビジュアルイメージング事業で、映像演出案件が堅調に推移していることから
増収となりました。

営業利益は、
評価損の戻入れもありましたが、
構造改革効果の発現や事業環境好転による収益性改善により、
大幅な増益となりました。

中間純利益は、
フォトニクスソリューション事業にて収益構造見直しの一環で計上した
減損損失がありましたが、
前期に計上した事業構造改善費用が減少したことで増益となりました。

続いて、営業利益57億円の増減内容について、ご説明いたします。

(スライド６ページへ)

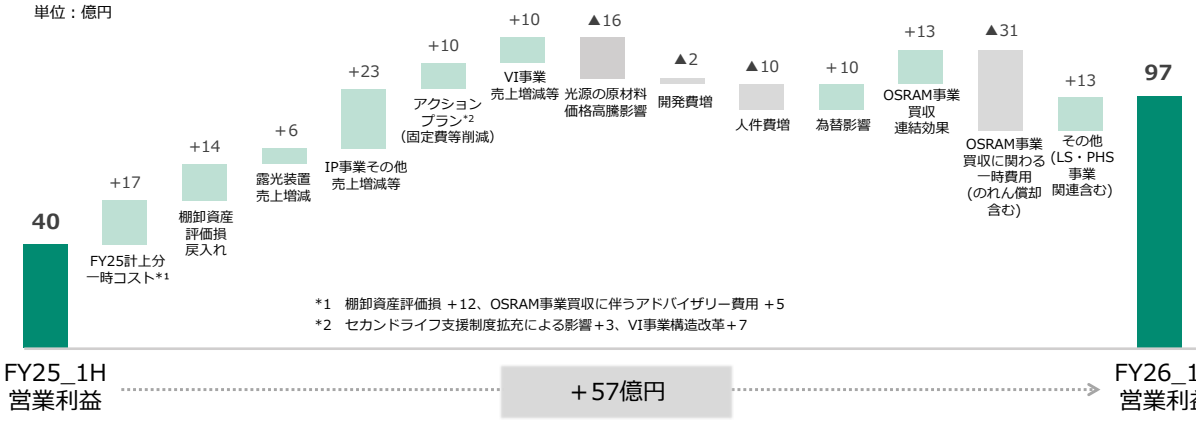
2026年度１Ｈ：財務ハイライト

単位：億円		2025年度 １Ｈ実績	**2026年度 １Ｈ実績**	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高		814	**1,035**	＋221	＋27.2%
営業利益		40	**97**	＋57	＋143.8%
営業利益率		4.9%	**9.5%**	＋4.5P	-
経常利益		50	**96**	＋46	＋92.2%
親会社株主に帰属する中間純利益		2	**53**	＋51	-
EPS（円）		2.77	**67.59**	＋64.82	-
為替レート（円）	USD	146	**160**	＋14	-
	EUR	167	**185**	＋18	-

Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved.

2026年度１Ｈ：営業利益 増減分析(前年同期比)

事業全般で堅調に推移。また、構造改革効果の発現や評価損戻入れ計上により増益幅が拡大



Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved.

光源の主要部材であるタングステン価格が急騰しており、
約16億円のコスト増加が生じています。
また、オスラム事業買収に関わる一時費用が増加しています。

一方で、半導体分野中心に事業環境が堅調に推移していることに加え、
構造改革効果の発現などで収益性の改善が進み、
前年同期からの増益幅が大きくなりました。

続いて、セグメント別の業績をご説明します。

(スライド８ページへ)

2026年度１Ｈ：セグメント別業績

単位：億円

		2025年度 １Ｈ実績	2026年度 １Ｈ実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
Industrial Process	売上高	344	**463**	＋119	＋34.7%
	営業利益 (営業利益率)	20 (5.9%)	**56** **(12.3%)**	＋36 (＋6.3P)	＋177.8% -
Visual Imaging	売上高	380	**465**	＋84	＋22.3%
	営業利益 (営業利益率)	18 (4.7%)	**22** **(4.9%)**	＋4 (＋0.2P)	＋26.2% -
Life Science	売上高	32	**36**	＋3	＋10.4%
	営業利益 (営業利益率)	1 (5.2%)	**3** **(10.9%)**	＋2 (＋5.8P)	＋133.5% -
Photonics Solution	売上高	49	**63**	＋14	＋28.4%
	営業利益 (営業利益率)	0 (1.7%)	**14** **(22.0%)**	＋13 (＋20.3P)	- -
その他	売上高	6	**5**	▲0	▲9.9%
	営業利益 (営業利益率)	▲0 (▲6.9%)	**0** **(12.0%)**	＋1 (＋18.9P)	- -
連結合計	売上高	814	**1,035**	＋221	＋27.2%
	営業利益 (営業利益率)	40 (4.9%)	**97** **(9.5%)**	＋57 (＋4.5P)	＋143.8% -

Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved.

2026年度１H：Industrial Process事業

USHIO

単位：億円	2025年度 1H実績	2026年度 1H実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	
売上高	344	**463**	+119	+34.7%	
営業利益	20	**56**	+36	+177.8%	
営業利益率	5.9%	**12.3%**	+6.3P	-	
サブセグメント別売上高					
露光用ランプ	76	121	+45	+58.7%	①
OA用ランプ	26	30	+4	+17.9%	
光学機器用ランプ	61	132	+70	+114.4%	①
光源事業合計	164	285	+120	+73.1%	
露光装置	98	104	+6	+6.9%	②
光学装置その他	81	73	▲7	▲9.7%	③
光学装置事業合計	179	178	▲1	▲0.7%	
Industrial Process事業合計	344	463	+119	+34.7%	

以下コメントは、OSRAM事業買収の影響を除く増減コメント

■売上高 ： 前年同期比 119億円増収

- 半導体需要が堅調に推移し、関連する光源の販売が増加 ①
- 露光装置の販売は前年同期比で微増も、引き合い・受注は増加 ②
- EUVメンテナンス収入が減少 ③

■営業利益 ： 前年同期比 36億円増益

【増益要因】

- 前期計上の棚卸資産等の評価損(12億円)が減少
- 露光装置の需要回復による評価損戻入れ(14億円)を計上
- 半導体関連の光源が伸長し製品ミックス改善

【減益要因】

- 光源の原材料価格高騰による影響 (詳細はスライド19)

(参考) OSRAM事業買収の影響
売上高：約＋90億円 （すべて光源事業）
営業利益：軽微なプラス影響

(参考) 棚卸資産評価損等の一時費用計上 (IP)
FY25(前期)：１Q及び４Qに計上、２Q及び３Qは軽微
FY26(今期)：２Qに軽微な計上

Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved.

インダストリアルプロセス事業です。

売上高は、オスラム関連事業に加え、
半導体関連の光源の販売が増加したことが増収に貢献しました。
特に、露光用ランプや、光学機器用ランプに含まれるサーマルプロセス関連の販売が
伸長しました。
露光装置は微増収でしたが、今後の販売拡大に向け、
引き合い・受注は順調に積み上がっています。
なお、EUV事業の終息判断に伴いメンテナンス収入は減少しました。

営業利益は、
前期に計上した評価損12億円の減少や、評価損の戻入れ14億円を計上。
また、光源事業が堅調に推移していることから、
製品ミックスが改善し増益に寄与したことで、利益率が改善しました。

一方、光源の主要な部材であるタングステン価格が高騰し、影響を受けていますが、
対策を講じることで、今後、その影響を抑制していきます。

これらの結果、36億円の増益となりました。

2026年度１H：Visual Imaging事業

USHIO

単位：億円	2025年度 1H実績	2026年度 1H実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	
売上高	380	**465**	+84	+22.3%	
営業利益	18	**22**	+4	+26.2%	
営業利益率	4.7%	**4.9%**	+0.2P	-	
サブセグメント別売上高					
プロジェクター用ランプ	47	78	+30	+65.7%	③
照明用ランプ	15	32	+16	+106.1%	
光源事業合計	62	110	+47	+75.9%	
シネマ	153	152	▲0	▲0.5%	②
一般映像	164	202	+37	+23.1%	①
映像装置事業合計	317	355	+37	+11.7%	
Visual Imaging事業合計	380	465	+84	+22.3%	

以下コメントは、OSRAM事業買収の影響を除く増減コメント

■売上高 ： 前年同期比 84億円増収

- エンタメ分野で映像演出案件が増加し、販売が増加 ①
- 前期案件の反動で減少も、円安効果で横ばい ②
- レーザー化の浸透が継続し販売数は減少も、円安効果等で増収 ③

■営業利益 ： 前年同期比 ４億円増益

【増益要因】
- 構造改革効果が発現

【減益要因】
- 光源の原材料価格高騰による影響（詳細はスライド19）
- OSRAM事業買収に伴う一時コストの増加

(参考) OSRAM事業買収の影響
売上高：約＋60億円 （光源事業＋47億円、映像装置事業＋13億円）
営業利益：マイナス影響（期初計画より影響増加）

(参考) 棚卸資産評価損等の一時費用計上 (VI)
FY25：４Qに計上
FY26：発生なし

Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved.

ビジュアルイメージング事業です。

売上高は、オスラム関連事業および円安効果に加え、
エンターテインメント分野での映像演出ニーズの高まりにより、
一般映像案件が堅調に推移し、増収に寄与しました。

シネマは、前年同期比で案件が減少した影響を受けるも、円安効果で横ばい。
一方で、シネマ用ランプは、レーザープロジェクターの浸透が進み販売が減少しました。

営業利益は、
構造改革効果が発現し、増益に寄与しました。
一方、タングステン価格の高騰影響や、オスラム事業買収に伴うPMIコストが
一時的に増加するなどの減益要因もありました。

その結果、４億円の増益となりました。

2026年度１H：Life Science事業 /Photonics Solution事業

USHIO

Life Science事業

単位：億円	2025年度 1H実績	2026年度 1H実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	32	**36**	+3	+10.4%
営業利益	1	**3**	+2	+133.5%
営業利益率	5.2%	**10.9%**	+5.8P	-

以下コメントは、OSRAM事業買収の影響を除く増減コメント

■売上高 ： 前年同期比　３億円増収

- 植物育成向けナトリウムランプの販売が減少

■営業利益 ： 前年同期比 ２億円増益

- 新規案件の投資対象見極め効果等で販管費が減少

(参考) OSRAM事業買収の影響
売上高：約＋7億円、営業利益：軽微なマイナス影響

Photonics Solution事業

単位：億円	2025年度 1H実績	2026年度 1H実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	49	**63**	+14	+28.4%
営業利益	0	**14**	+13	-
営業利益率	1.7%	**22.0%**	+20.3P	-

■売上高 ： 前年同期比　14億円増収

- 半導体向けデバイス及びモジュールともに販売が増加

■営業利益 ： 前年同期比　13億円増益

- 稼働改善及び構造改革等の効果で原価・販管費が減少し利益率向上

(参考) OSRAM事業買収の影響
売上高：約＋2億円、営業利益：軽微なマイナス影響
(参考) 継続的な事業評価に伴い事業構造改善の費用(特損)9億円計上

Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved. 10

ライフサイエンス事業です。

売上高はオスラム関連事業で増収したものの、
既存事業では、植物育成向けナトリウムランプの販売が減少しました。

営業利益は、
前期に取り組んだ新規案件の投資見極め効果により、
収益性が改善しました。

最後に、フォトニクスソリューション事業です。

売上高14億円の増収は、オスラム関連事業に加え、
半導体向けデバイス、モジュールともに販売が堅調に推移したことによるものです。

営業利益は、
売上増に伴う稼働改善や開発案件の取捨選択効果などで、
原価および販管費が減少し、収益性が大幅に改善しました。

また、フォトニクスソリューション事業では、収益構造見直しの一環として、
事業評価を継続的に実施しており、当期も９億円の関連費用を特別損失に計上しています。

続いて、通期業績予想についてご説明します。

(スライド12ページへ)

I.　2026年度 １H業績概要

II.　2026年度 通期業績予想

III. 決算トピックス

IV. 参考資料

Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved.

2026年度 通期業績予想について

USHIO

半導体関連事業が想定を上回り推移。円安効果及び構造改革効果の着実な発現を受け、上方修正

売上高	**●2,200億円　（＋100億円）**　（ ）前回予想からの差異 - 堅調な半導体市場を背景に関連事業が想定を上回り推移 - 円安効果
営業利益	**●180億円　（＋40億円）** 【上方要因】 - 光源事業が伸長し製品ミックスが改善、構造改革効果の発現及び棚卸資産評価損の戻入れ計上 【下方要因】 - 光源の原材料価格高騰の影響、OSRAM事業買収による一時コストの増加
当期純利益	**●120億円*1　（＋15億円）** - 営業利益の上方修正に伴い修正 なお、投資有価証券(政策保有株式含む)売却益の計上が想定されるものの、現時点で見積もりが困難なため予想に織り込んでおりません
ROE	**●6.0%*2　（+0.7P）**
配当額	**● 1株当たり70円 維持**
為替前提	**●通期為替レート　USD：155円、EUR：180円**

【参考】
*1 OSRAM事業買収に関わる一時コスト除く当期純利益：159億円
*2 調整後*ROE：8%超
*OSRAM事業買収に関わる一時費用及び2024年３月末からの評価差額金等(純資産)の増加を除く

Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved. 12

今、ご説明したように、第２四半期決算も社内計画を上回り推移しており、
今後もこの事業環境が継続する見込みから、
通期業績予想を売上・利益ともに上方修正します。

売上高は、
半導体関連の事業全般が伸長しているほか、
円安効果もあり、100億円上方修正します。

営業利益は、
光源の原材料価格高騰やオスラム事業買収の一時コスト増加など、
マイナス影響もありますが、
構造改革効果が着実に発現していること。
半導体関連事業が伸長し、製品ミックスが改善傾向にあること。
また、評価損の戻入れを計上したことなどにより、
40億円上方修正します。

当期純利益は、
営業利益の修正により、15億円上方修正します。

なお、今回の業績修正に伴い、ROEは６％。
一時発生費用や評価差額金などの増加分を除く調整後ROEは８％となります。
配当については、１株当たり70円を維持します。

続いて、セグメント別の内容についてご説明します。

(スライド14ページへ)

2026年度 通期業績予想：修正内容及び財務ハイライト

単位：億円		今回	前回 2026.5.14	差異	2025年度 通期	増減額	増減率
売上高		2,200	2,100	+100	1,792	+407	+22.8%
営業利益		180	140	+40	119	+60	+50.5%
営業利益率		8.2%	6.7%	+1.5P	6.7%	+1.5P	-
経常利益		180	140	+40	133	+46	+34.9%
親会社株主に帰属する当期純利益		120	105	+15	79	+40	+50.1%
EPS（円）		151.16	132.27	+18.90	94.88	+56.28	+59.3%
ROE（%）		6.0%	5.2%	+0.7P	4.0%	+2.0P	-
年間配当（円）		70	70	-	70	-	-
為替レート（円）*	USD	155	150	+5	150	+5	-
	EUR	180	175	+5	174	+6	-

* 1Hの為替レート(実績)：USD：160円、EUR：185円、2Hの為替レート(前提)：USD：150円、EUR：175円
（参考）為替感応度：１円変動による影響額(通期)【対USD】売上高：約10.0億円、営業利益：約1.4億円

Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved.

2026年度 通期業績予想：セグメント別業績予想 修正内容

USHIO

	単位：億円	今回	前回 2026.5.14	差異	修正後予想に対する1H進捗率	修正内容	2H見通し
Industrial Process	売上高	1,025	925	+100	45.2%	【IP_売上高 +100】 (+)半導体需要増で光源中心に増加 (+)円安効果 【IP_営業利益 +25】 (+)光源増加で製品ミックス改善 (+)評価損の戻入れ計上 (▲)光源の原材料価格高騰 (▲)事業買収の一時コスト増加*	・露光装置販売が増加 （ただし、4Q集中による期ずれリスクを精査中） ・開発費が上→下で増加 ・EUV終息判断で段階的に減収
	営業利益 (営業利益率)	100 (9.8%)	75 (8.1%)	+25 (+1.6P)	56.9% -		
Visual Imaging	売上高	965	965	-	48.2%	【VI_売上高 ±0】 (+)円安効果 (▲)一般映像案件の一部先送り影響 【VI_営業利益 ▲10】 (▲)光源の原材料価格高騰 (▲)事業買収の一時コスト増加*	・シネマ:季節性で増加
	営業利益 (営業利益率)	50 (5.2%)	60 (6.2%)	▲10 (▲1.0P)	45.6% -		
Life Science	売上高	75	90	▲15	48.4%	【LS_売上高 ▲15】 (▲)植物育成向けランプの販売減少 【LS_営業利益 +5】 (+)構造改革効果(販管費抑制など)	・売上・利益ともに堅調に推移
	営業利益 (営業利益率)	6 (8.0%)	1 (1.1%)	+5 (+6.9P)	66.0% -		
Photonics Solution	売上高	125	105	+20	51.1%	【PHS_売上高 +20】 (+)半導体関連の販売が増加 【PHS_営業利益 +19】 (+)稼働改善及び構造改革効果 (開発費含む経費抑制など)	・半導体関連は堅調に推移 ・開発費が上→下で増加
	営業利益 (営業利益率)	24 (19.2%)	5 (4.8%)	+19 (+14.4P)	58.5% -		
その他	売上高	10	15	▲5	59.4%		
	営業利益 (営業利益率)	0 (0.0%)	▲1 (▲6.7%)	+1 (+6.7P)	- -		
連結合計	売上高	2,200	2,100	+100	47.1%		
	営業利益 (営業利益率)	180 (8.2%)	140 (6.7%)	+40 (+1.5P)	54.4% -		

*OSRAM事業買収に伴う統合において、当初資産計上を予定していたインフラ費用等の一部で費用処理が必要となり、今期の一時コストが増加

Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved. 14

各セグメントの修正内容は、ここまで説明してきた状況と重複するため、
詳細な説明は割愛させていただきますが、

インダストリアルプロセス事業は、
半導体関連の事業環境が堅調に推移していることから、
売上・利益ともに上方修正します。
下期は、露光装置が計画通り販売増加の見込みですが、
案件が第４四半期に集中しており、期ずれリスクを精査中です。
また、EUV終息による減収や、開発費およびオスラム事業買収コストの増加を見込んでいます。

ビジュアルイメージング事業は、
円安効果がある一方で、下期の一部映像装置案件が来期以降に先送りされる影響で、
売上高は維持。
営業利益は、光源部材の価格高騰とオスラム事業買収コストの増加影響を加味し、
下方修正します。
なお、下期は、季節性でシネマは増加する見込みです。

ライフサイエンス事業およびフォトニクスソリューション事業は、
収益性の改善が進んでおり、利益を上方修正します。
なお、フォトニクスソリューション事業では、開発費が下期に増加する見込みです。

続いて、株主還元についてご説明します。

（スライド17ページへ）

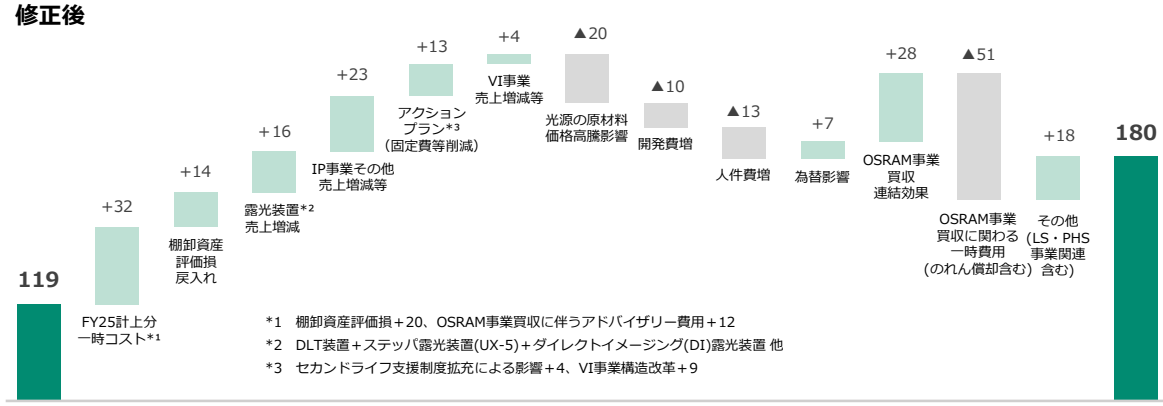
2026年度 通期業績予想：セグメント別

	単位：億円	2025年度 実績	2026年度 修正後予想	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
Industrial Process	売上高	771	**1,025**	+253	+32.9%
	営業利益 (営業利益率)	64 (8.4%)	**100** **(9.8%)**	+35 (+1.3P)	+54.2% -
Visual Imaging	売上高	838	**965**	+126	+15.0%
	営業利益 (営業利益率)	46 (5.6%)	**50** **(5.2%)**	+3 (▲0.4P)	+7.1% -
Life Science	売上高	62	**75**	+12	+19.9%
	営業利益 (営業利益率)	1 (2.2%)	**6** **(8.0%)**	+4 (+5.8P)	+327.3% -
Photonics Solution	売上高	105	**125**	+19	+18.1%
	営業利益 (営業利益率)	5 (5.3%)	**24** **(19.2%)**	+18 (+13.9P)	+325.4% -
その他	売上高	13	**10**	▲3	▲25.9%
	営業利益 (営業利益率)	1 (13.6%)	**0** **(0.0%)**	▲1 (▲13.6P)	- -
連結合計	売上高	1,792	**2,200**	+407	+22.8%
	営業利益 (営業利益率)	119 (6.7%)	**180** **(8.2%)**	+60 (+1.5P)	+50.5% -

Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved.

2026年度 通期業績予想：営業利益 増減分析(前年同期比)

修正後



*1 棚卸資産評価損＋20、OSRAM事業買収に伴うアドバイザリー費用＋12
*2 DLT装置＋ステッパ露光装置(UX-5)＋ダイレクトイメージング(DI)露光装置 他
*3 セカンドライフ支援制度拡充による影響＋4、VI事業構造改革＋9

FY25 営業利益（実績）　＋60億円　FY26 営業利益（見通し）

Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved.

株主還元

USHIO

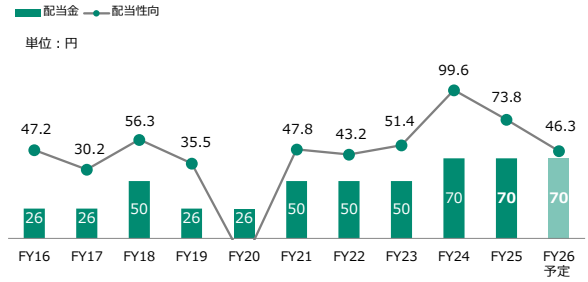
１株当たり期末配当額

【配当方針】

安定的な配当

新成長戦略の方針：
FY24～FY26:下限配当70円/年を設定

2026年度　**70円/年（予定）**



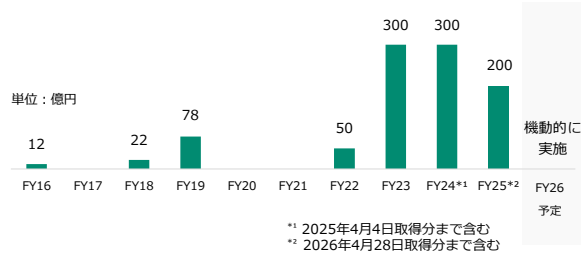
自社株投資

【自己株式取得の方針】

機動的に実施

新成長戦略の方針：
FY24～FY26で累計500～600億円の
自社株投資を実施予定

2026年度　**機動的に実施**



*1 2025年4月4日取得分まで含む
*2 2026年4月28日取得分まで含む

Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved. 17

今年度の配当は、１株当たり70円を維持。
自社株投資は、機動的に実施を検討していく考えに変更ございません。

続いて、いくつかトピックスをご説明します。

（スライド19ページへ）

I. 2026年度 １H業績概要

II. 2026年度 通期業績予想

III. 決算トピックス

IV. 参考資料

Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved.

【トピックス①】光源の原材料(タングステン)価格高騰の影響

USHIO

光源(ランプ)の主要部材であるタングステン価格高騰による業績影響

■ **タングステン価格の状況**

- 価格は、2026年年初から高騰。足元で高止まりしている状況
- 一方で、生産に必要な供給量は確保済み

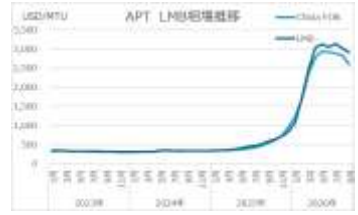
■ **対策**（今後の更なる影響を軽減する取り組みを実施）

- 価格対策を実施
- 安定的な供給を維持するためのサプライチェーン見直しを検討

■ **業績影響**（修正公表値に織り込み済み）

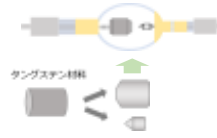
- FY26 営業利益影響(試算)：約**▲20億円***　　*「原価アップ－価格対策」の影響額
  （参考）：上期_▲16億円、下期_▲4億円　ただし、価格対策効果で徐々に影響は低下の見込み

参考：タングステン価格の動向



出典：月別タングステン価格表/指導価格 - 日本特殊材料株式会社 – を基に自社生成

参考：タングステンは、光源(ランプ)の主要部材として使用



Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved.

まず、タングステン価格高騰による影響です。

光源の主要部材であるタングステンの価格が年初から高騰し、
足元で価格は高止まりしているものの、業績に一定の影響を与えています。

対策として価格対策を実施。
また、今後の安定的な供給を維持するため、サプライチェーンの見直しも検討しています。

業績への影響は、
今期の営業利益に約20億円の損失影響を想定しています。
価格対策を実施しますが、価格急騰に一部追い付かないため、
影響が出ることを見込んでいるものです。

引き続き、動向を注視してまいります。

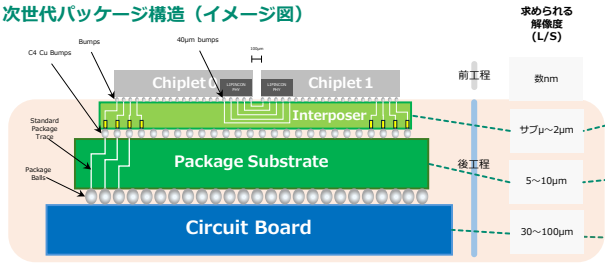
続いて、半導体アドバンスドパッケージ事業の最新状況についてご説明します。

【トピックス②】半導体アドバンスドパッケージ関連の露光装置（１）

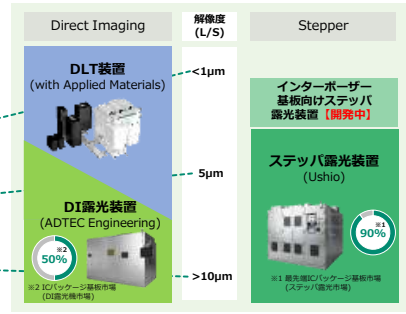
USHIO

生成AIに求められる次世代パッケージ構造とウシオの製品ラインアップ

次世代パッケージ構造（イメージ図）



ウシオの露光装置ラインアップ



先端パッケージ基板	需要動向	技術トレンド	対応するウシオの露光装置
インターポーザー基板	堅調なAI需要に加え、パネル化、大判化への技術トレンド変化を想定	有機化/大判化/パネル化	**・デジタルリソグラフィ(DLT)装置** ・ステッパ露光装置（1.5μ機開発中）
サブストレート基板	GPU需要に加え、ASICやCPU、スイッチIC向け需要も加わり拡大傾向継続	大判化/多層化/高密度化/ガラスコア化	**・ステッパ露光装置** ・DLT装置 ・DI露光装置
PCB基板	AIサーバー向けで需要増加傾向。多層化で、重厚基板等の需要が増加	大判化/多層化/高密度化	**・DI露光装置**

主な特長・ウシオの強み

Direct Imaging	Stepper
・製品レイアウトの自由度 ・多品種及び試作対応が容易 ・高い重ね合わせ精度 DLT：2μm以下の高精細配線に対応し、かつ高い補正能力を有す DI：安定した配線品質に加え、大型基板、重厚基板に対応	・マスク露光による配線品質の確保 ・シンプルな構成で、生産性・量産の安定性が高い UX-5：多くの導入実績を持ち、安定量産を早期実現できる性能・品質を保持

*最新の受注・引き合い状況及び生産体制強化は、スライド21～22参照

Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved. 20

改めて、当社の半導体アドバンスドパッケージ向け製品ラインアップと、
各先端パッケージ基板の需要および技術動向を整理しています。

各基板ともに非常に旺盛な需要環境にあり、当社は、各基板で求められるニーズに対し、
最適なカタチでご提供できるフルラインアップ体制を備えています。

【トピックス②】半導体アドバンスドパッケージ関連の露光装置（２）

USHIO

受注・引き合いの最新状況

■ **DLT装置 ： 主要顧客で評価継続中、量産内定案件は生産開始**

- 主要顧客における装置採用に向けた評価は進行中
- 量産用途での採用内定案件について、生産開始



■ **ステッパ露光装置(UX-5) ： 先端パッケージ基板向けの旺盛な需要が継続**

- 汎用AI半導体に加え、ASICやスイッチIC向け需要の拡大を背景に、先端パッケージ基板向けの引き合い増加傾向が継続
- FY28～29を対象とする中長期案件についても商談活発化



■ **ダイレクトイメージング(DI)露光装置 ：旺盛な需要が継続**

- AIサーバー向けPCB基板に加え、光モジュール基板及び先端パッケージ基板向けの需要拡大を背景に、高水準の引き合いが継続
- FY28～29を対象とする中長期案件についても商談活発化



Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved.

露光装置の最新の受注・引き合い状況です。

高水準の引き合いが継続しており、
ステッパおよびダイレクトイメージング露光装置の引き合いは、
来期にとどまらず、28、29年度の商談も活発化しています。

DLT装置は、ファインピッチ・サブストレートやインターポーザー基板向けで、
採用に向けた評価がお客様側で継続中です。
また、既に獲得した量産内定案件については、順次生産を開始しています。
来期以降の業績貢献を期待しています。

【トピックス②】半導体アドバンスドパッケージ関連の露光装置（３）

USHIO

生産体制を強化

【主力工場】

■ **ステッパ(UX-5) 及び ダイレクトイメージング(DI)露光装置**



ウシオ電機　御殿場事業所

ステッパ・DI露光装置ともに、生産能力を1.5倍以上へ引き上げ

- 部材調達の強化を進めつつ、生産能力を1.5倍以上(FY26比)へ段階的に引き上げ
- パートナー企業(外注先)との連携を強化し、生産能力を拡大

■ **DLT装置**



アドテックエンジニアリング
長岡工場

足元の案件に対する生産体制は構築済み。今後は適宜検討

- 足元の受注・引き合い(量産内定含む)に対応する生産体制を構築済み
- 今後も引き合い等の増加に応じ、早期に生産体制の増強を進める方針

Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved.

これらの旺盛な引き合いに対し、生産体制を強化しています。

ステッパ、ダイレクトイメージング露光装置ともに、
部材調達の強化を進めつつ、
生産能力を徐々に1.5倍以上へ引き上げていきます。

なお、今回の生産能力増強については、
既存施設の活用とパートナー企業との連携により、
投資をコントロールしながら進めてまいります。

DLT装置については、
足元での内定案件を含め、一定の生産体制を構築済みです。
今後も、本格量産の立ち上がりのスケジュールに合わせ、
生産体制の増強を進めていきます。

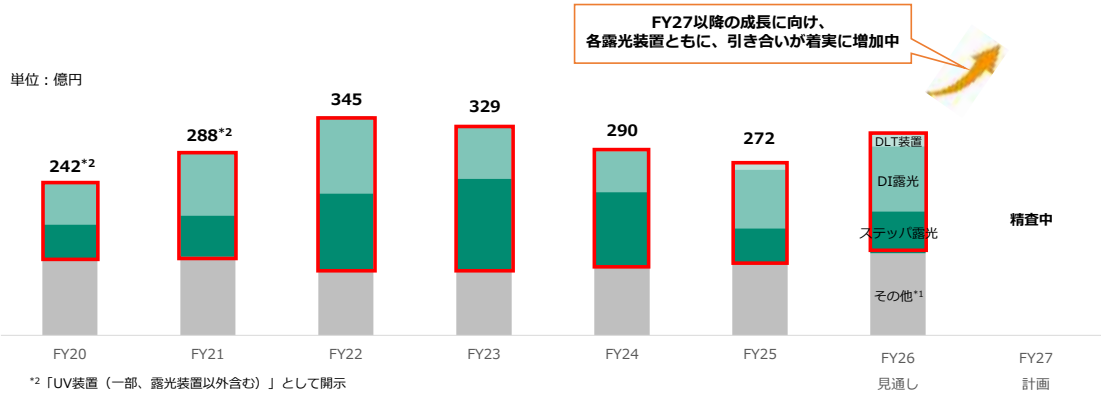
【トピックス②】半導体アドバンスドパッケージ関連の露光装置（４）

USHIO

サブセグメント「露光装置」の売上高推移

主要な露光装置：DLT装置＋ステッパ露光装置(UX-5)＋ダイレクトイメージング(DI)露光装置

*1「その他」は、その他露光装置（UX-4他） 及び 露光装置に関するサービスメンテナンス



*2「UV装置（一部、露光装置以外含む）」として開示

Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved.

露光装置事業の売上高の推移は、ご覧の通りです。
25年度を底に、今期26年度は限定的ながらも販売が増加に転じます。

来期27年度は精査中です。
部材確保と生産キャパシティ増強の対応を行い、一定程度の拡大を見込んでおります。
DLT、ステッパ、ダイレクトイメージング、いずれの露光装置も拡大する見込みです。

【トピックス③】 Visual Imaging事業_一般映像関連の事例紹介（１）

■一般映像の事例紹介

世界のさまざまなシーンで革新的な映像体験に貢献

米国
ChristieのProAVプロジェクター及びLEDビデオウォールは、米国のUniversal Destinations & Experiencesのテーマパーク(Epic Universe、Universal Studios Hollywood、Universal Orlando Resort)に採用されています。これらの製品は、ダークライド、プレショー、待機列向けエンターテインメント、特別イベント演出など、**色の再現性、総合的な映像品質、１日16時間・通年稼働を支える信頼性**が求められる場面で活躍しています。
*中国のUniversal Beijing Resortや日本のUniversal Studios Japanでも採用されています

CHRISTIE The official projection systems provider for Universal Orlando Resort™ & Universal Studios Hollywood™

NEW

スペイン
ChristieのGriffyn® 4K35-RGBピュアレーザープロジェクターは、スペインの歴史テーマパークPuy du Fou Españaの大型ショー「El Último Cantar」に採用されています。
高輝度RGBレーザー投影システムにより、舞台装置やライブパフォーマンス、舞台照明、映像を一体化した**360度の没入型空間を実現**し、**観客を引き込む映像体験**の創出に貢献しています。



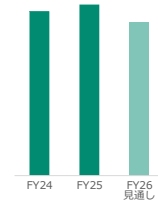


3DLP Projector



【参考情報(台数推移)】

一般映像向けプロジェクター



Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved.

最後に、ビジュアルイメージング事業の一般映像で、
今期業績に貢献している案件の一部をご紹介します。

海外グループ会社のクリスティ社製の高輝度プロジェクターおよびシステムは、
世界各国の映像演出において採用されています。

アミューズメントパークのアトラクションや舞台演出などで、
没入感や臨場感ある映像体験の実現に貢献しています。

【トピックス③】 Visual Imaging事業_一般映像関連の事例紹介（２）

■一般映像の事例紹介

高信頼性が求められる訓練・シミュレーション分野で採用

NEW

米国

ChristieのMicroTiles® LEDディスプレイは、Lockheed Martinのパイロット向け完全没入型訓練システム「AMAZE (Amorphic Appearance Zero-Projector Environment)」に採用されています。360度の没入型訓練環境で高品質な映像を提供するとともに、従来のプロジェクター方式と比べてシステム構成の複雑さを軽減し、設置スペースの削減に貢献。また、その確信性・信頼性・精度が評価され、CristieはLockheed Martinより「2025 Best-in-Class Supplier」に選定されました。

今後も、厳格な性能・信頼性が求められる用途向けのソリューション開発を通じて培った専門性を、シミュレーション、教育・訓練、エンターテインメント等の高付加価値な映像技術市場で活かしていきます。





MicroTiles LED



Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved.

また、エンターテインメント分野だけでなく、
パイロットの訓練施設などシミュレーション分野でも、
クリスティ社の高輝度LEDディスプレイを使ったソリューションが、活用されています。

このように、全世界の様々なシーンで、ウシオの映像システムが活躍しています。

以上で、本日の私からのご説明を終わります。

Christieの映像ソリューションを支える主要製品と全世界で採用される理由

3DLP Projector



＋

MicroTiles LED



主な特徴と優位性

シネマスクリーンから大型施設向けProAVまで、卓越した映像性能を実現

- **業界をリードする映像性能：**ネイティブ4K、広色域(P3/Rec. 2020)、高輝度出力により、優れた色再現性、明るさ、コントラストを実現。プレミアムな映像体験を提供
- **統合ソフトウェアと自動化による導入効率の向上：**高度なワーピング、ブレンディング、自動アライメント、再キャリブレーション、モニタリング・制御ツールにより、複数台のプロジェクターを使用する環境でも、迅速な導入と安定した映像品質を実現
- **エンドツーエンドのソリューションパートナー：**長年にわたるグローバルでの導入実績と専門知見を活かし、設計段階から導入、運用後のサポートまで、ライフサイクル全体を通じて支援
- **大規模用途で実証された性能：**シネマコンプレックスからプロジェクションマッピング、アリーナ、ミュージアムまで、幅広い用途で安定した性能を発揮
- **TCO*の低減に貢献：**省電力性に優れたレーザープラットフォームとソフトウェア主導のアップグレードにより、性能向上を図りながら、消費電力の低減とレーザー光源の長寿命化を実現
  *TCO: Total cost of ownership

複雑なカスタム環境にも柔軟に対応

モジュール構造により、シームレスなスケール拡張、曲面構成、視野範囲のカスタマイズが可能。シミュレーションドームから大規模な没入型体験まで、幅広い用途に対応

高い没入感を実現する映像性能

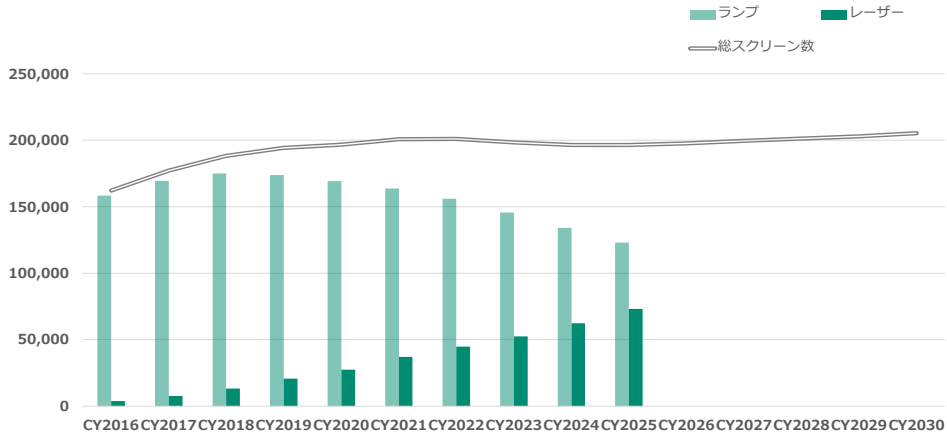
優れたコントラスト、暗部表現、低遅延性能により、トレーニング、シミュレーション、体験型アプリケーションにおいて重要となるリアルな映像表現を実現

効率性と信頼性を両立

フリップチップ、コモンカソードなどの先進的なLED設計により、消費電力、発熱、メンテナンス負荷を低減し、システムのライフサイクル全体におけるTCOの低減に貢献。**Christie史上最高水準のエネルギー効率を実現**

Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved.

参考：Visual Imaging事業_光源別シネマスクリーン数及び総数の推移予想



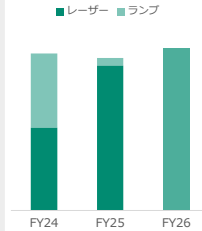
出所：ウシオ社内調査（2025年）

デジタルシネマプロジェクター



【参考情報(台数推移)】

デジタルシネマ
プロジェクター(DCP)



Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved.

USHIO

I. 2026年度 １H業績概要

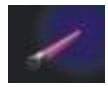
II. 2026年度 通期業績予想

III. 決算トピックス

IV. 参考資料

Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved.

事業セグメントと主な製品

事業セグメント	主要事業・製品	製品例
Industrial Process	光源： 露光用ランプ、OA用ランプ、光学機器用ランプ他 装置： 露光装置、キュア装置、保守メンテナンスサービス他	 露光用ランプ  OA用ランプ  エキシマランプ  ステッパ露光装置  DI露光装置  DLT装置
Visual Imaging	光源： シネマ用ランプ、データプロジェクター用ランプ他 装置： デジタルシネマプロジェクター、一般映像向けプロジェクター、映像関連機器、保守メンテナンスサービス他	 シネマ用ランプ  データプロジェクター用ランプ  デジタルシネマプロジェクター  一般映像用プロジェクター  ディスプレイLEDウォール  映像周辺機器
Life Science	光源：Care222®搭載モジュール他 装置：紫外線治療機器他	 抗ウイルス・除菌技術 Care222®搭載モジュール  紫外線治療機器「セラビーム®シリーズ」
Photonics Solution	光源：固体光源	 固体光源（LD/LED）  レーザーモジュール

Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved.

四半期推移《損益》

単位：億円		2025年度				2026年度		前年同期比	
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	増減額	増減率
売上高		383	430	455	522	489	545	+114	+26.7%
営業利益		9	30	37	42	49	48	+17	+59.0%
営業利益率		2.5%	7.1%	8.2%	8.1%	10.1%	8.9%	+1.8P	-
経常利益		16	34	38	44	53	43	+9	+27.4%
親会社株主に帰属する四半期純利益/損失		▲28	30	37	39	30	23	▲7	▲23.8%
EPS(円)		▲32.06	35.72	46.08	49.08	38.11	29.47	▲6.25	▲17.5%
為替レート (円)	USD	145	147	153	155	160	161	+14	-
	EUR	163	171	178	184	185	185	+14	-

Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved.

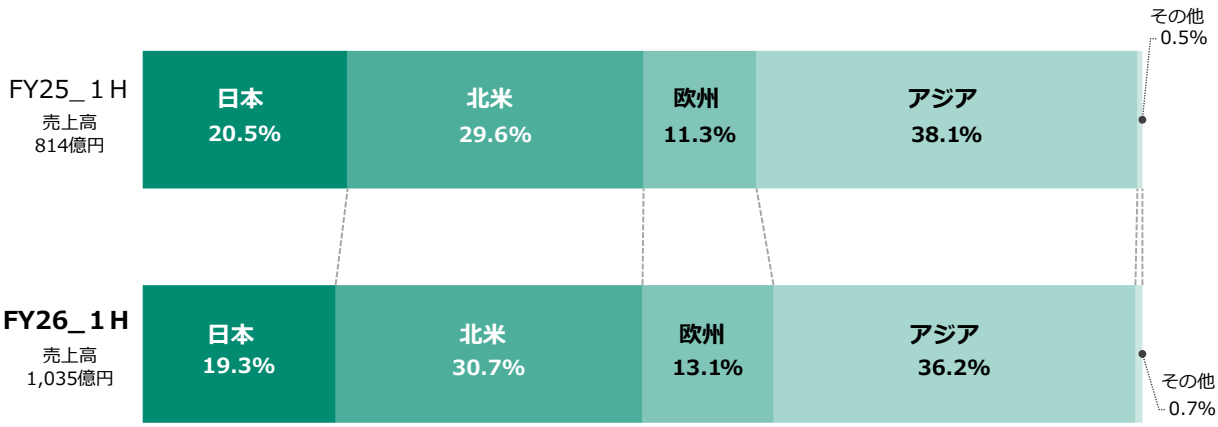
四半期推移《セグメント別損益》

USHIO

		2025年度				2026年度		前年同期比	
単位：億円		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	増減額	増減率
Industrial Process	売上高	158	186	185	241	205	258	+72	+38.7%
	営業利益	3	17	17	26	28	28	+10	+63.9%
	営業利益率	2.1%	9.2%	9.5%	11.1%	14.0%	10.9%	+1.7P	-
Visual Imaging	売上高	183	197	225	233	230	235	+37	+19.1%
	営業利益	3	14	17	10	13	9	▲5	▲37.9%
	営業利益率	1.9%	7.4%	7.8%	4.7%	6.0%	3.8%	▲3.5P	-
Life Science	売上高	15	16	14	15	21	14	▲2	▲12.0%
	営業利益	1	0	0	▲0	2	1	+1	+205.7%
	営業利益率	7.2%	3.3%	2.8%	▲4.6%	10.6%	11.3%	+8.1P	-
Photonics Solution	売上高	23	26	27	29	30	33	+7	+27.8%
	営業利益	2	▲1	1	3	4	9	+10	-
	営業利益率	9.8%	▲5.3%	5.9%	11.0%	15.8%	27.5%	+32.8P	-
その他	売上高	3	3	3	3	2	3	▲0	▲9.4%
	営業利益	▲0	▲0	0	2	0	0	+0	-
	営業利益率	▲7.3%	▲6.4%	5.8%	59.7%	10.5%	13.3%	+19.7P	-
連結合計	売上高	383	430	455	522	489	545	+114	+26.7%
	営業利益	9	30	37	42	49	48	+17	+59.0%
	営業利益率	2.5%	7.1%	8.2%	8.1%	10.1%	8.9%	+1.8P	-

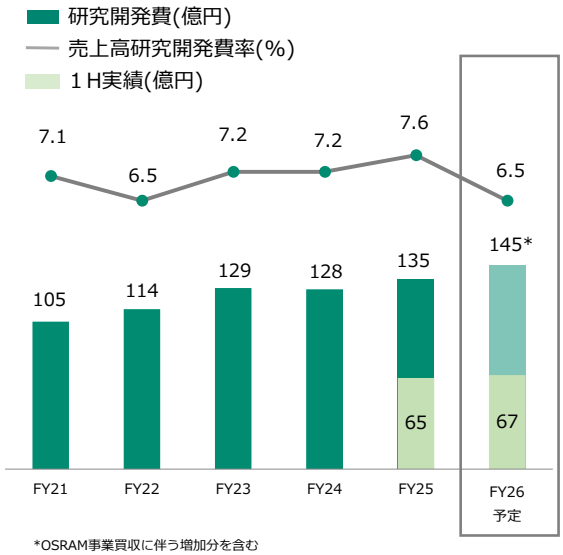
Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved.

地域別売上高比率

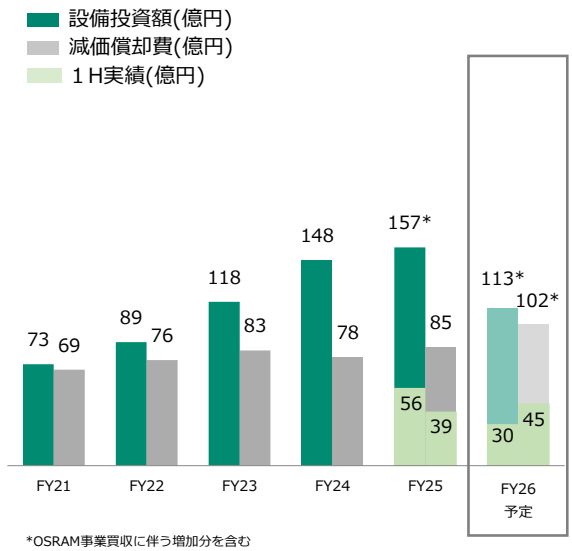


Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved.

研究開発費／設備投資額・減価償却費



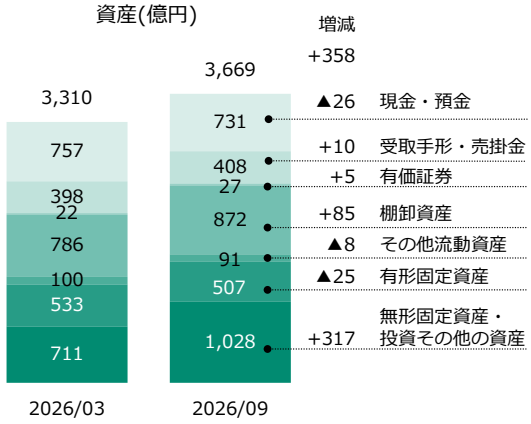
*OSRAM事業買収に伴う増加分を含む

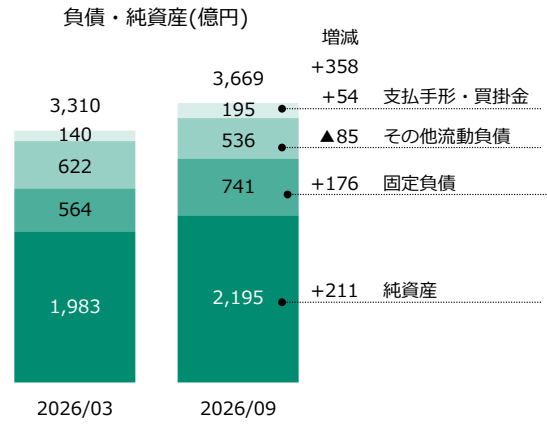


*OSRAM事業買収に伴う増加分を含む

Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved.

貸借対照表





回転月数(ヶ月)	2026/03	2026/09
売上債権	2.7	2.3
棚卸資産	5.2	4.8
CCC	6.9	6.2

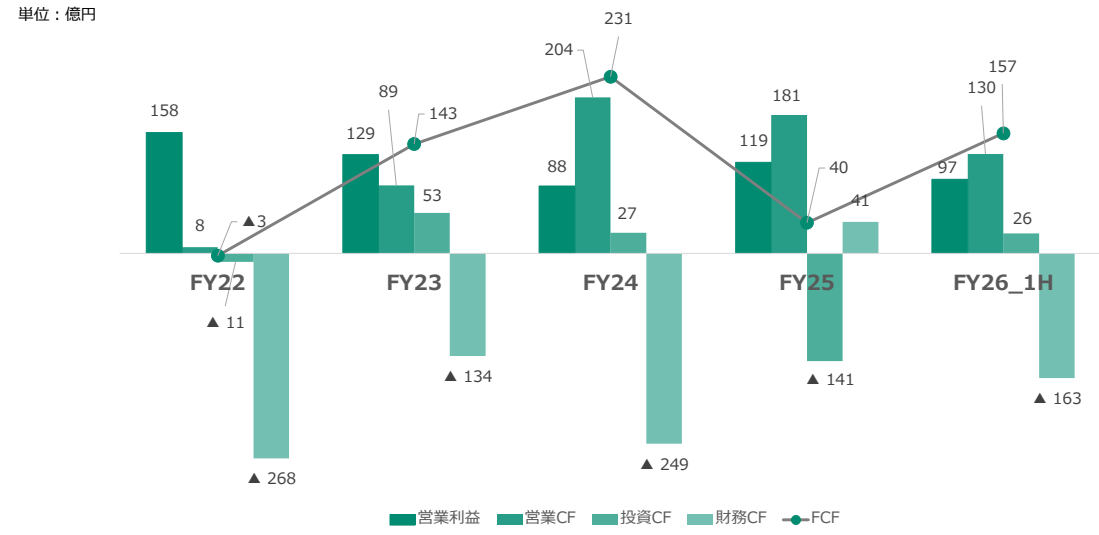
参考：2026/03にはOSRAM事業買収に伴う受入資産(155億円*)及び負債(58億円*)、のれん(64億円)が含まれます　*企業結合日時点の受入資産

自己資本比率(%)	2026/03	2026/09
	59.9	59.8

Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved.

キャッシュフロー推移

単位：億円



Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved.

用語集

■事業セグメント関連

IP事業	IP business	Industrial Process事業
VI事業	VI business	Visual Imaging事業
LS事業	LS business	Life Science事業
PHS事業	PHS business	Photonics Solution事業

■その他

AI	Artificial Intelligence	人工知能
DCP	Digital Cinema Projector	デジタル・シネマ・プロジェクター
DI	Direct Imaging	マスクを使わず、直接描画する露光方式
DLT	Digital Lithography Technology	デジタルリソグラフィ技術
EUV	Extreme Ultraviolet Radiation	極端紫外放射（極紫外放射）
OA	Office Automation	オフィス内の事務作業の自動化や効率化を図ること
半導体アドバンスドパッケージ(半導体ADP)	Advanced Packaging (ADP)	チップレットをはじめとする半導体の2xD、3D化に対応する最先端のパッケージ分野

Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved.

IRサイト及びIRメール配信サービスのお知らせ

USHIO

- 当社オフィシャルWebサイト「投資家情報」では、様々なIR情報を掲載しております。
- 法定開示や適時開示、その他IR情報等、ウシオのIRニュースを開示後適時にメールでお届けできるように**IRメール配信サービス**を導入しております。IRサイトからご登録いただきますようお願いいたします。

オフィシャルWebサイトもご活用ください



投資家情報



統合報告書
（Ushio Report 2026）



「大和インターネットIR表彰 2025」
「優秀賞」受賞



「2025年度 全上場企業ホームページ
充実度ランキング」
「総合部門 最優秀サイト」選定



「Gomez IRサイトランキング2025」
「銅賞」受賞

IRメール配信サービス
ご登録はこちら

Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved.

<免責事項>

本資料で記述されている将来の当社業績に関する見通しは、現時点で入手可能な情報を基に当社が判断した予想です。従いまして、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved.

＜本資料に関するお問い合わせ先＞
ウシオ電機株式会社
IR室
（03）5657-1007
ir@ushio.co.jp
http://www.ushio.co.jp/jp/ir

Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved.